

学校だより

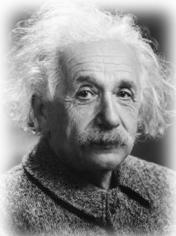
# プラタナス



令和4年1月11日(火)

市川市立市川小学校  
校長 蜂須賀 久幸

<https://ichikawa-school.ed.jp/ichikawa-sho>



## 常識とは18歳までに身につけた偏見のコレクションである

教職員をはじめ、保護者や地域の方、医療関係者ほか様々な方と話をする機会がありますが、考え方もみんな違いますから、自分にとっての「常識」は、必ずしも相手にとっての常識とは限らないと意識して接するように努めています。

Wikipediaでは、「常識は、社会を構成する上で当たり前のものになっている、社会的価値観や知識、判断力のこと。また、客観的に見て当たり前と思われる行為、その他物事のこと。社会に適した常識を欠いている場合、社会生活上に支障をきたすことが多い。」とあります。

古いタイプの私は先生を目指す講師の方に、「面接の際のYシャツは無地の白、靴下は黒。会場の入り口ではコートは脱ぎ、リュックを背負ったまま受付をしない」などと偉そうに話していましたが、自分の価値観の押し売りだったかもしれませんと反省することもあります。社会生活に支障をきたすことはないので、相手の心象への対応をあたかも常識のように伝えていたからです。

さて、表題の言葉は、相対性理論で有名な物理学者・アインシュタイン博士が残した言葉です。この常識（=偏見）は生きる時代や場所などによって大きく異なるはずですから、必ずしも絶対的なものではないと言えます。

アインシュタイン博士の言う「18歳」は、日本では高等学校の卒業を区切りにしていると考えると、子供たちは、今まさに家庭と学校の双方で常識のコレクションを増やしていると言っているのかもしれません。学校では、子供たちが自分の物差しを基準にして行動をとることが多々ありますので、日々友達とぶつかり合い、磨き合うことの連続です。そして互いに認め合う中で、それぞれが輝くためにはどんなことが大切なのかを学んでいるのです。この経験が、時間を経ながら共通の物差しになっていき、常識(?)となって蓄積されていくのでしょう。教室で頑張る子供たちは、間違いを通して成長をしていきます。それは教科の勉強以上に、人間関係形成の礎となるほどの大きな意義あるものなのではないでしょうか。オンラインでは学べない、学校本来の姿です。

アインシュタイン博士は、次のような言葉も残しています。

“重要なのは、疑問を持ち続けること。知的好奇心は、それ自体に存在意義があるものだ”

“失敗したことのない人間は、挑戦したことのない人間である”

「教室は間違うところだ」という言葉を使いますが、まさにそのとおりです。

トライするから失敗もしますし、失敗してこそ学ぶことだってたくさんあると思っています。進学・進級まであと2か月半。小学生の今だからできること、努力すれば届くのではないかと思われる目標に向かって挑戦する子供たちを、私たち教職員は応援します！今年もどうぞよろしくお願いします。





## 正しい鉛筆の持ち方をするとよいことある?

私の右手中指には、大きな「ペンだこ」があります。指に鉛筆などをギュッと押し付けるからです。筆圧が強いので、HBのシャープペンシルの芯が0.5mmではすぐに折れてしまうので、論文調のものを仕上げる場合には0.9mmかつB以上のシャープペンシルで書くことがよくありました。

ただ、ペンの持ち方にはコンプレックスがあります。写真のように、親指が人差し指の中に入ってしまいます。いつの頃からか変な癖がついて、気づいた時にはあとの祭り。ですから、人前でサインなどをする時には、他人の視線が気になって仕方ありません。

自分を棚に上げて、営業や店員の方のペンの持ち方を見てしまします。「よくそれで書けるなあ」と思ってしまうことも少なくないです。だからこそ、子供たちには正しい鉛筆の持ち方を身につけてほしいと思っています。ペンの持ち方や姿勢が美しいとか、文字がきれいというだけで得をする場面があるかもしれません。無理やり矯正するというより、自分で意識して直せるのは今しかないと思うのです。そんな鉛筆について「○×クイズ」にチャレンジしてください。正月休みモードからまだ回復しない人は、頭をフル回転させてみてください。

- Q1 日本で作られる鉛筆の長さは決められている。
- Q2 新品の鉛筆で直線を書き続けると、市川駅から成田空港まで行ける。
- Q3 鉛筆の濃さ・硬さの分類は、10段階である。
- Q4 鉛筆が六角形なのは、持ちやすいからである。
- Q5 鉛筆を正しく持てるといいことがある。



鉛筆のことを知ることで、見方が少し変わるかもしれません。解答は次号にて。

## 『気になる子への適切な理解と支援』 ～知ってほしい、僕たち私たちの得意なこと・苦手なこと～

「発達障がい児講演会」が下記により開催されます。

発達障がいという概念が一般化してしばらく経ちますが、必ずしも正しく理解され、適切な支援・対応が図られているとは限りません。多くは第三者の場合でしょうが、身近な親や教員ですら正しい知識や支援方法を有しているとは言い切れません。二次障害を防ぐためにも、正しい理解と周囲の支援について理解を深めるために、オンラインでの講座が開催されますのでご案内いたします。

記

1 配信期間 令和4年3月10日(木)~23日(水)

2 申込期間 令和4年1月5日(水)~2月18日(金)

3 講 師 片山 泰一 氏(大阪大学大学院教授)

4 問い合わせ 市川市こども発達相談室 ☎047-370-3577

5 その他の \*市川市公式チャンネルからのYouTube配信です。

\*市川市イベントポータルサイトに登録してから申し込みます。また、視聴方法等についてパンフレットがありますので、興味のある方はお声かけください。

